

# 教育概要

## 1. 教育理念

本校は「自ら問題解決に取り組む姿勢・実行力を持ち、仲間と共に社会に貢献する人材を育成する」との理念をかかげ、学生が未来の美容界で、自分らしく多様な活躍を描き、将来の夢を実現できる力を身に付けることを目標としています。

## 2. 教育指針

日々の教育の場では「学校の主役は学生、教職員は夢実現のサポーター」との役割に徹し、「キメ細かな粘り強い指導」を行い、本校が最も大切にしていることは次の3点です。 ①安心できる「場＝クラス／学校づくり」、②「美容の楽しさ」を高める工夫、③確かな実力「心・技・知」を身に付ける。

## 3. カリキュラムポリシー

本校教育課程は、①トータル美容、②基礎美容、③実践美容の3つの教育目標を達成するための編成となっています。特に、時間数の多くを占める美容実習では、「美容業務を安全・効果的に行うための総合的な技術の基礎を身に付ける」こと、美容技術理論では、「美容業務における衛生・能率的に実施する態度・習慣を養い、科学的合理的な方法を身に付ける」ことを目標とし育成します。また学内行事・キャリア教育など本校教育活動の全般を通して、美容業界で活躍するために必要な「創造力・表現力・課題解決力・セルフマネジメント力・持続力」などのコンピテンシーを身に付け、社会に送り出します。

関係法規・制度 30時間以上	理容師法・美容師法を中心に、理容業・美容業に関係の深い法令の内容を理解し、公衆衛生を担う理容師・美容師の社会的責任を学びます。
衛生管理 90時間以上	公衆衛生全般と、理容師・美容師として注意を払わなければならない環境衛生や感染症について学びます。また、理容業・美容業に必要な消毒の意義、目的、方法や関連法令に則した実践を学びます。
保健 90時間以上	理容師・美容師は人体に直接触れる職業であるため、頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造（解剖学）、機能（生理学）について学ぶ必要があります。また、皮膚や毛髪に関する深い理解を得るため、皮膚やその付属器官についても詳細に学びます。
香粧品化学 60時間以上	理容業・美容業において使用する器具や香粧品は、使用方法を誤ると人体に有害に働くこともあります。そこで香粧品化学では正しく、安全に取り扱うために必要な知識を学びます。
文化論 60時間以上	理容・美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うと共に、理容・美容やファッションの文化史を学びヘアデザインに役立てます。
運営管理 30時間以上	理容業・美容業にもとめられる接客の意義と技術を習得すると共に、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を身に付けます。
美容技術理論 150時間以上	美容用具の正しい取り扱い方法を学び、シャンプー、ヘアデザイン、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラー、エステティック、ネイル、メイクアップ、日本髪、着付けなどの技術を学び、美容の基礎的技術理論を身に付けます。
美容実習 900時間以上	シャンプー、カット、パーマ、ヘアセッティング、カラー、エステティック、ネイル、メイクアップ、日本髪、着付けなどの基本的技術を美容技術理論の内容に即して身に付けると共に、実践実習を行い、総合的技術を学びます。
選択課目 600時間以上	外国語・社会福祉・カウンセリング・ビジネスマナー・ヘアスタイル画によるトータルファッション・まつ毛エクステンションなど、各養成施設が特色をいかして設定する課目を学びます。

令和7年度新入生 総合美容コース教育課程一覧

	授業科目		実務経験	第 1 学年	第 2 学年	単位数合計	法定単位数	
必修 課 目	関係法規・制度		な し		1	1	1	
	衛生管理		有	1	2	3	3	
	保健		有	1	2	3	3	
	香粧品化学		有		2	2	2	
	文化論		有	1	1	2	2	
	美容技術理論		有	3	2	5	5	
	運営管理		有	1		1	1	
	美容 実 習	サロン実習Ⅰ		有	3		3	3 0
		カット		有	4	3	7	
		ワインディング		有	3	3	6	
		オールウェーブ		有	1	3	4	
		ヘアアレンジⅠ		有	1		1	
		アイⅠ		有	1		1	
		エステⅠ		有	1		1	
ネイルⅠ		有	3		3			
メイクⅠ		有	3		3			
和装Ⅰ		有	1		1			
美容実習計			2 1	9	3 0	3 0		
必修課目小計				2 8	1 9	4 7	4 7	
選択 課 目	キャリアアップ		有	1		1	2 0	
	クリーンビューティ		有	1		1		
	パーソナルカラーⅠ＆Ⅱor 総合演習		有	1	1	2		
	美容総合演習		有		1	1		
	美容 総 合 技 術	サロン実習Ⅱ		有		3		3
		ヘアデザインⅡ		有		2		2
		ヘアアレンジⅡ		有		1		1
		アイⅡor 美容実習Ⅱ		有		2		2
		エステⅡor 美容実習Ⅱ		有		1		1
		ネイルⅡor 美容実習Ⅱ		有		1		1
		メイクⅡor 美容実習Ⅱ		な し		1		1
		和装Ⅱor 美容実習Ⅱ		な し		2		2
		サロン演習 A		有	1			1
		サロン演習 B		有	1			1
美容総合技術計			2	1 3	1 5			
選択課目小計				5	1 5	2 0	2 0	
合 計				3 3	3 4	6 7	6 7	

# 成績評価

## 1. 定期考査

各科目の学習成果や教育効果を通して、成績評価するために定期的に試験（前期・後期、進級・卒業判定、国試受験認定など）を実施します。定期考査の受験資格は原則出席率 70% 以上です。尚、忌引き、病欠（診断書または病院領収書必要）などの特別な事情がある場合のみ未受験を容認します。また各定期考査の不合格・未受験を補う追試験も、必要な場合に実施します。追試験受験には教育上必要とする課題提出・補習などを設定します。

## 2. 成績評価

各学期・学年の成績評価は、定期考査成績と授業態度や提出物の状況等による平常成績を総合して 5 段階評定で行います。考査を実施しない科目の評価は、出席点などの平常成績をもって算出します。5 段階評価の基準は次の通りです。

評価 5	（85 点～100 点）
評価 4	（70 点～ 84 点）
評価 3	（60 点～ 69 点）
評価 2	（ 0 点～ 59 点）※追試験成績 合格（60 点～100 点）
評価 1	（ 0 点～ 59 点）※追試験成績不合格（ 0 点～ 59 点）

## 3. 履修（その科目を学習したこと）の認定

各科目の出席時数が 80% 以上の者に、当該科目の履修を認定します。

## 4. 単位修得（その科目の単位が取れたこと）の認定

科目の履修を認定された者の内、評価 2 以上の者に当該科目の修得を認定します。

## 5. 進級・卒業の認定

判定会議にて、上記評価・認定の基準を用い、適正に判断し、進級・卒業を認定します。  
尚、卒業認定は厚生労働省が定める所定科目の総履修 2010 時間以上の要件も加え、判定します。

## 6. その他

当該学年の履修科目が未履修・未修得である場合は、原級に留め置きます。